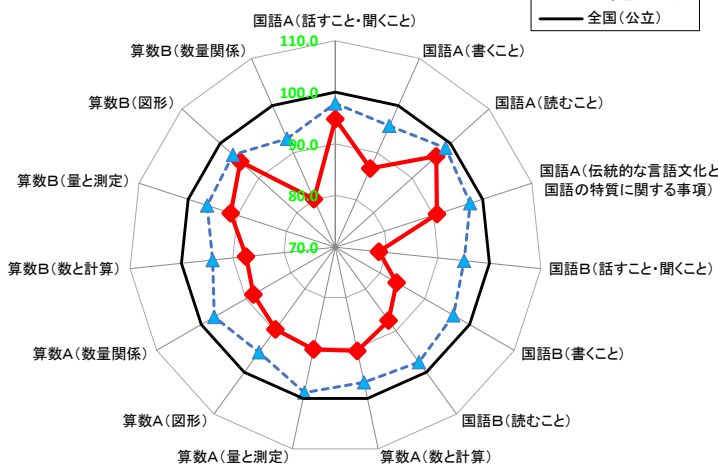


滝川市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:6、児童数:305名)

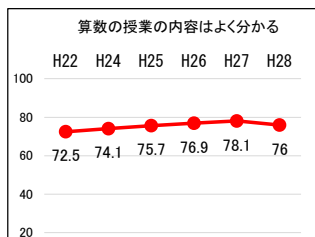
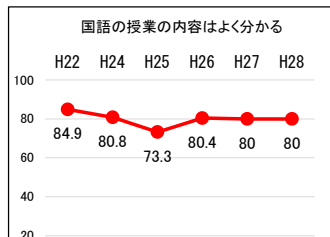
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

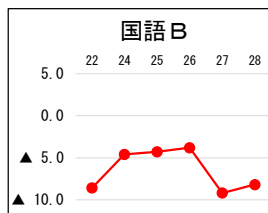
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



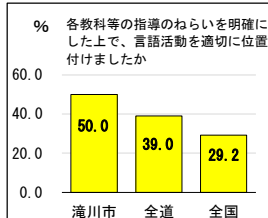
【児童質問紙調査】



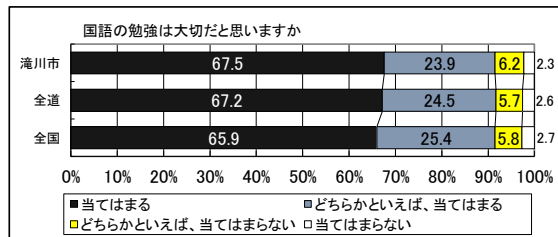
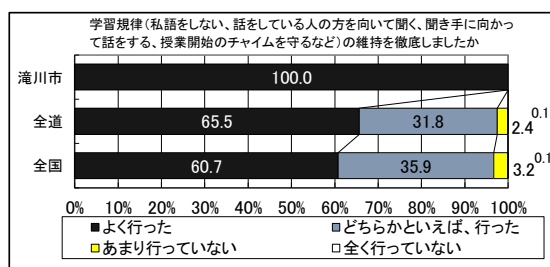
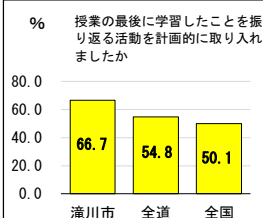
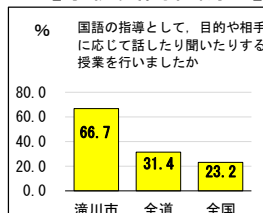
【平均正答率の全国との差の推移】



※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「読むこと」で他の領域に比べて、全国に最も近くなっている。 ○ 算数Bでは「図形」で他の領域に比べて、全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律を維持するとともに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付け、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた授業をよく行ったことにより、国語や算数がよく分かる児童の割合が増え、国語Aの「読むこと」、算数Bの「図形」で他の領域に比べて、全国に最も近くなったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平均正答率の推移については、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をよく行ったことにより、国語は大切だと思う児童の割合が増え、国語Bで全国との差が縮まってきていると考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校で、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底する取組をよく行っている。 	

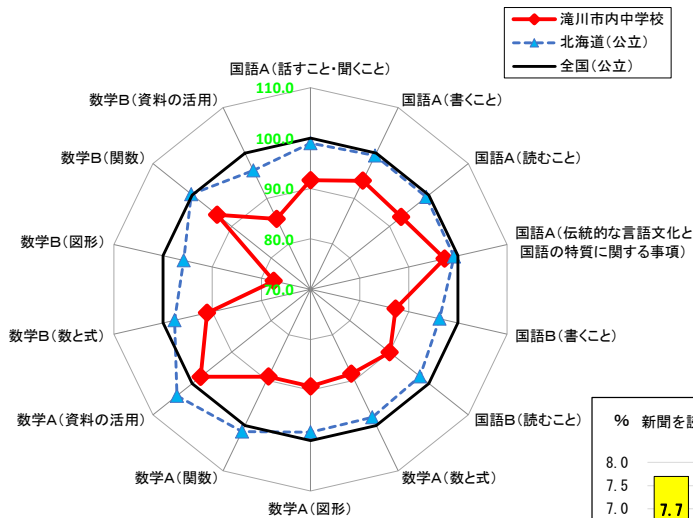
【滝川市の学力向上策】

- ◎ 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や学びサポーターの戦略的配置など少人数指導体制の積極的な推進
- ◎ ティーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れることにより、一人一人の児童が抱えている学習のつまずきの解消
- ◎ 本市独自に少人数学級実践事業を導入し、学習内容に深まりが出る小学3・4年生に対してきめ細やかな指導・支援
- ◎ 小学校全校で家庭学習の手引を作成し、家庭における予習や復習の習慣化について保護者の協力を得ながら取組を推進
- ◎ 授業改善推進チーム活用事業により教師の指導力向上を図るとともに、学校間の取組を発信して積極的に授業改善を推進

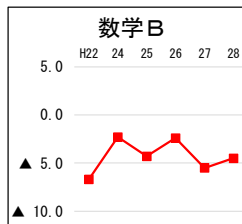
滝川市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:4、生徒数:323名)

【教科全体の状況】

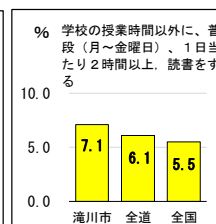
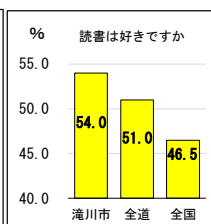
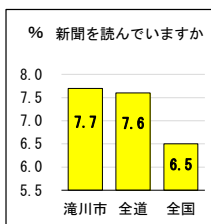
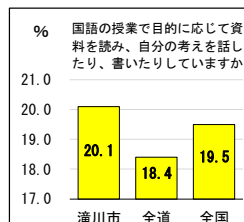
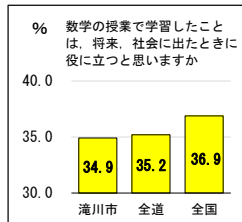
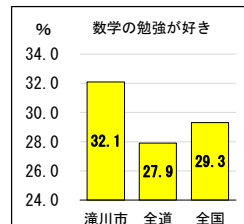
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



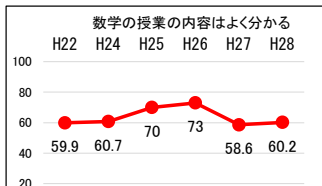
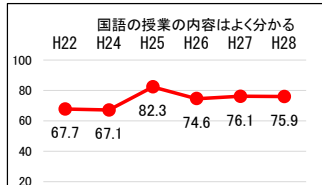
【平均正答率の全国との差の推移】



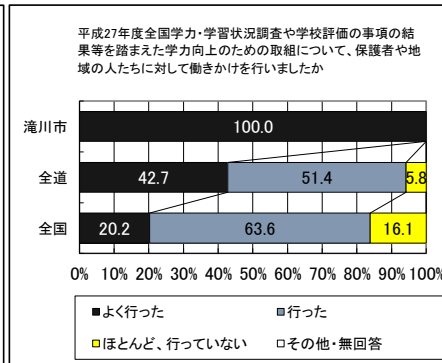
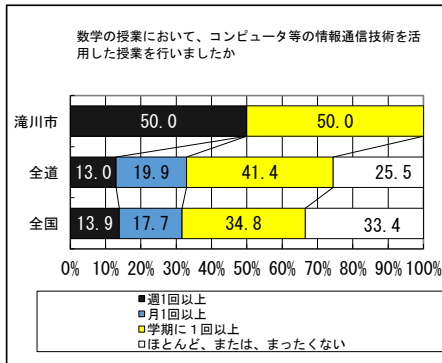
【生徒質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で他の領域に比べて、全国に最も近くなっている。 ○ 数学Aでは「資料の活用」、数学Bでは「関数」で他の領域に比べて、全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成27年度全国学力・学習状況調査や学校評価の事項の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに働きかけをよく行った結果、読書環境の充実が図られ、普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上、読書をするようになったり、国語の授業で目的に応じて資料を読んで自分の考えを話したり、書いたりするようになったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業の目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平均正答率の推移については、数学の授業において組織的にコンピュータ等の情報通信技術等を使用したり、生徒に目的に応じて資料を読ませ、自分の考えを話させたり、書かせたりした結果、生徒が数学を好きになり、数学Bで全国との差が縮まったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校で、平成27年度全国学力・学習状況調査や学校評価の事項の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけをよく行っている。 	

【滝川市の学力向上策】

- ◎ 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や学びサポーターの配置など少人数指導体制の積極的な推進
- ◎ ティーム・ティーチング指導や習熟度別指導を積極的に取り入れることにより、生徒個々に応じた学び直し、知識技能の習得
- ◎ 中学校全校で家庭学習の手引を作成し、家庭における予習や復習の習慣化について保護者の協力を得ながら取組を推進
- ◎ また、校区の小学校と連携して作成した手引の活用
- ◎ 本市で開催される公開研究会を機に、中学校の学習における全市的な成果と課題の共通理解を図り、国語と数学の授業改善を推進